

かせかけ

No. 23

沖縄県立看護大学広報誌
2013(平成25年)10.18



CONTENTS

- 看護大学を体験!! 看護大学オープンキャンパス2
- 南米の研修生来たる3
- 新人看護師のための臨床実践ヘルスアセスメント研修.....3
- シリーズ のぞいてみよう看護大学.....4
 - ・新しい教育方法への挑戦4
 - 「学習者主体の教育技法の修得に向けたFD研修会の開催」
 - ・離島実習からの学び4
 - 将来につながる貴重な体験
 - “島だからこそ学べる”看護の醍醐味

- 学生支援体制の特徴5
- 2013 海外研修ハワイセミナーを終えて.....6
- キャンパスライフ紹介.....7
 - ・学生会の活動紹介
 - ・サークル活動紹介
- 発見!素敵な横顔8
- 平成25年度 主な大学行事日程8

2013

看護大学を体験!

看護大学 オープンキャンパス



大学紹介・入試説明会



やってみよう! 血圧測定と手洗い

学部 未来の看護学生獲得へ

広報・情報専門部会 金城 忍

平成25年7月27日(土)に開催されたオープンキャンパスには、これまでで最も多い400名余りの方にお越しいただきました。大学紹介コーナーでは、200名収容の大講義室でも来場者が着席できず、急遽、机と机の間にイスを設置し対応するほどの盛況ぶりでした。相談コーナーでは、本学の特徴や奨学金、取得免許、そして就職先についての質問が出されていました。例年好評の体験コーナーには「赤ちゃん教室へようこそ!」「血圧測定と手洗い」「命をつなぐAED」「あなたの未来体験」などがあり、ボランティアを務めていた学生たちから熱心に説明を受けている来場者の姿が印象に残っています。また「キャンパスツアー」や「在学生・卒業生とのフリートーク」では、和やかな雰囲気の中、学生ボランティアから入学後の様子を聞く姿が見られ、アンケートにも「丁寧に説明してくれて良かった」「ぜひ入学したい」「参加して良かった」など嬉しい回答も多く寄せられており、非常に充実した1日でした。

大学院 専門看護師を目指すなら大学院へ

大学院入試副委員長 神里 みどり

平成25年7月27日(土)に大学院生募集説明に関する個別相談を実施し、9人の社会人の看護師が参加しました。本年度は過去最高の参加人数であり、徐々に本大学院の認知が高まっていることがうかがえました。今年の相談者は、大学院で学ぶ目的が明確であり、特に専門看護師養成課程を受験する学生は、自己の専門性を踏まえたキャリアアップについて熱く語っていました。

本大学院ではすでに修士課程50人、後期課程12人が修了し、臨床や教育現場で活躍しています。特記すべきは、本大学院の専門看護師教育課程の一期生の修了生が老人専門看護師、がん看護専門看護師として認定されたことです。

平成26年度から小児の専門看護師養成課程を開設する予定であり、看護系大学協議会へ現在申請中です。本大学院は4つの専門看護師教育課程(がん・慢性・老年・精神)があり、臨床現場の看護職の皆様が働きながら学んでいます。

平成26年2月に再募集をする予定です。ぜひ新たな挑戦をし、未来の専門看護師を目指してください! 大学院でお待ちしています。

別科助産 助産師志望の高校生にわくわくドキドキ

別科助産専攻 峰岸 まや子

「今年の別科の説明会へは、何人くらい見えるのだろうか」わくわくドキドキで始まった7月27日。全体の大学紹介後に4階の講義室10に集まっていただきました。別科助産専攻に受験予定の方々6名。県内の看護学生、本学部生、そして県外からも。自己紹介をしていると、高校生が大勢みえて、ちょっとびっくり。「別科は、看護師の資格がないと受験できないのですよ」と説明したのですが、将来は助産師になりたいので、ぜひ聞いておきたいと。こんなにも助産師志望の高校生がいらっしゃるとは、とても頼もしい限りです。

加えて、展示コーナー「助産師ってなあに?」では、助産師の仕事やどのような所で活躍しているのか、また、学生生活についてなど、別科助産専攻の学生ボランティアが具体的に説明したり、質問を受けたり、とても好評で、多くの方々に来場されました。

半日という短い時間でしたが、別科助産専攻について知っていただく機会となったオープンキャンパスでした。

南米の研修生来たる

国際交流室運営委員会 山城 綾子

2013年6月24日(月)に平成25年度JICA研修受け入れが本学で行われ、南米から11名の研修生が来ました。当日は嘉手苧英子学部長の挨拶に始まり、学内視察、講義が午前と午後に行われ、間を挟んで学食にて和やかな雰囲気の中、昼食を共にしました。午前の小池秀子准教授の講義では前半じっと聴き入る研修生の姿から、後半は実際に体験したり実物を見たり触れたりしながら、様々な質問や感想を交えて大変興味を持った様子でした。午後の講義では玉城清子教授による助産の講義が行われ、妊婦体験や学生とのディスカッションが活発に行われました。その後の講義についても質問を交え、熱心にスライドに聴き入り、メモを取る姿が見られました。川崎道子教授の講義では、学生を交えて議論が行われ、大変有意義な時間を共有することができた様子でした。本学での研修により日本の医療、看護分野への理解が深まり、研修生の皆様が南米各国へ帰国後も国際的な視野から医療、看護分野へ関わっていくことを期待いたします。同時に、本学が微力ながらも国際交流及び協力へ貢献できるようこれからも充実した研修内容を提供できるよう努めてまいります。



新人看護師のための臨床実践ヘルスアセスメント研修

成人保健看護 講師 謝花 小百合

九州・沖縄の看護系大学等12大学が連携して「卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究」に取り組んでおります(科学研究費助成 基盤研究(A))。本大学では、新人看護師のみなさんの看護技術向上の支援として、臨床実践で使えるヘルスアセスメントを厳選し、3回シリーズで研修を行っております。

実際に受講した新人看護師からの評価として「1~2週間の間隔で研修があることで、勤務の時にも前回の研修で習った内容について意識し、『次の研修までに習ったことを実践してみよう』という気持ちを持ったことや「病棟で実際に活用した肺炎やCOPDを持つ患者さんの肺音を聞き、どのような問題があり、どういったケアにつなげていけるのかを考えるのに活用できた」などがありました。

次回のヘルスアセスメント研修は11月から始まります。興味のある方は本大学のホームページ(スキルラボ)をご覧ください。



シーズ のぞいてみよう 看護大学

新しい教育方法への挑戦



「学習者主体の教育技法の修得に向けたFD研修会の開催」

プロジェクトメンバー
赤嶺 伊都子

本学大学院を担当している講師6人がプロジェクトメンバーとなり、本学の助教・助手の先生方を対象として、「学習者主体」の教育技法に関する研修会を企画しました。プロジェクトメンバーは、2つのグループに分かれてシナリオを作成し、「学習者に脅威や不安を与えない」ことを第1に、クリティカルシンキングをベースにしたシミュレーション教育技法を取り入れました。

シナリオ作成や模擬授業では、スーパーバイザーとして阿部幸恵先生を招聘し、詳細で具体的なアドバイスを頂きました。本研修会に参加した学習者からは、学習者主体の教育技法を取り入れた演習の重要性や認識が高まったという意見が聞かれました。本研修会を通して、プロジェクトメンバーや学習者として参加した先生方、オブザーバーとして参加した先生方が、従来の一方向からの教授法ではなく、学習者主体の教育とは何かをあらためて再認識した研修になったと思います。今回の学びで得た教育技法を、本学での講義・演習・実習で活用できるように努力したいと思います。



離島実習からの学び

将来につながる貴重な体験

1年次 知念 祐弥

私は、早期体験実習で石垣市の「福祉ネットワークやえやま(あかゆらグループ)」にお世話になりました。そこで、モデル看護師の當山さんに、石垣島の看護現場をみせていただいたり、病院勤務の看護師や離島保健師の職務内容と看護職者になってからの話を聞かせていただいたりと、多くのことを学ぶことができました。その中でも、特に将来のためになると思ったことは、當山さんがグループホームで行ってきた認知症の方との関係作りです。當山さんが個人の診察をする前に、全体で挨拶を済ませ、あらかじめ他の人から症状や痛いところを聞いていたのにもかかわらず、「〇〇さんおはようございます。どこかおかしいところはありますか?」と話し始めていました。後から聞いた話によると、一人一人に挨拶をすることは、コミュニケーションにおいて重要なことであり、また、診察はあらかじめ聞いていた情報だけではなく、自分の視覚や触覚を使って判断しなければいけないとのことでした。當山さんは、このような看護を5年間続けることで、グループホームの方々との関係を作ることができたそうです。高齢者を対象にする看護職者を目指している私にとって、早い段階で認知症看護に触れたことは、今後につながる貴重な経験になると思います。



“島だからこそ学べる” 看護の醍醐味

4年次 下地 美咲

私は島嶼保健看護を履修し、島嶼の地域特性に合わせた看護実践を行うことの重要性について学ぶことができました。この科目で久米島に離島実習に行った際、病院の外来受診・治療を中断してしまった患者さんを再び治療に結びつけるために、島の病院と役場が連携して一人ひとりの患者さんを把握し、保健師の家庭訪問等により重症化を予防するといった取り組みがなされていました。これは、人口が少なく、個々の住民の健康を把握しやすいという島の特性を生かした看護実践であり、“島の力”の大きさを実感しました。これまで、離島は保健医療サービスが不足しており不便であるといったイメージが強かったのですが、“島だからこそ”できる保健医療福祉の密な連携や、“島だからこそ”ある住民と医療職の親密性を学び、離島のイメージが変わりました。離島の多い沖縄で看護に携わっていく者として、離島住民の健康を支える島嶼保健看護について、深く学ぶことができよかったです。



学生支援体制の特徴

～入学から卒業まで 一貫した支援を提供～



1年次の成長は「学びの習慣化」

1年次部会長 金城 芳秀

大学合格の喜びも束の間、新入生は「授業時間90分は長い」「複数の教科書で進行も早い」「やたら課題が多い」とため息をつきます。看護系は必修科目が多く、一年次から専門科目を意識した基礎科目を準備しています。当初は科目間のつながりが分からないものですが、カリキュラムを意識し、シラバスを活用する姿勢が大切です。最も肝心なことは教職員を最大限に活用することです。加えて、仲間作りを通して主体的な学習環境を自ら作り上げることが求められます。そこで、一年次部会の担当教員は、「やらなかった」ではなく、「やれなかった」に関心があり、どのようにすればできるかを共に考えていきます。時には大学のルールを守ることを厳しく求めますが、ルールを変えるための対話も用意しています。われわれは成長の作法を身に付けてもらうために学生を支援しています。すなわち、一年次の成長は「学びの習慣化」から始まります。

体力・気力・知力が求められる 2年次

2年次部会長 佐久川 政吉

2年次の特徴として、専門科目が増え、講義の深まりや、演習・実習も本格的になってくることから、体力・気力・知力が求められる学年である。学生のセルフケアに加え、学習や生活環境を支援する教員の役割も重要になってくる。そこで、2年次部会では、行動計画に基づき、以下の学生支援に取り組んでいる。①2年次全員が進級できるような学習支援（出席状況の確認、学習面の相談にのる等）、②学習環境を整えるための健康管理・生活面での支援（交流会、同窓会・後援会との連携等）、③経済面での支援（経済面での心配事の相談、修学資金の情報提供等）、④学生の課外活動への支援（全体交流会、看護祭の活動への支援）。

特に後期は、長期の実習に伴うストレスやインフルエンザの流行等、健康管理への支援が求められる時期である。学生と同様に、教員も気を引き締めながら、学生全員が健康を維持し学習成果が得られるような支援を継続していきたい。

新カリキュラムのトップランナー 3年次

3年次部会長 小池 秀子

3年次の学生は、前期で保健看護に関する知識や生活療養援助技術について学修し、後期には1週間の演習とそれに続く2週間の実習を4領域経験する。

したがって、まず、4月当初より生活リズムを整え健康管理を促している。また、アルバイトをしている学生には、実習中にはアルバイトを制限する必要があることを伝え、アルバイトをやめることにより経済的な支障がでないかなど聴き、必要時は奨学金獲得の相談に応じるなどしている。

次に、卒業後の進路の見通しをつける時期でもある。臨地実習終了後には、個々人の希望や特性を見据えての支援が必要になると考え、継続的支援となるよう個人面談表の案を作成し試用するなどしている。

最後に、現3年次は新カリキュラムのトップランナーであるため、科目ごとの達成度やカリキュラムの課題もみていきたい。

光り輝きながら巣立っていく 4年次

4年次部会長 仲宗根 洋子

4年次担当教員は、担当グループの学生生活支援に加えて、国試対策と進路対策支援活動を年間を通して行います。4年次部会は、看護師・保健師・助産師の国家試験の合格率と卒業と進学・就職先の決定の重責を担っているといえます。

今年度は、4月にまず卒業に必要な単位が確実に取れるか、取りこぼしがいないか学生自身が成績通知書をもとに確認することを個人面談で実施しました。さらに国家試験を全員が合格するために現在の取り組み状況を点検しました。

また進路対策として小論文の書き方が4月の中旬より外来講師による5回シリーズで始まり、その後就職セミナー、面接の受け方の学内講演会開催、県内外の就職説明会の参加呼びかけ、就職活動状況把握などを実施しているところです。さらに個別指導や相談などでも就職試験における面接、履歴書内容に関する直接指導、教員自身の就職に関する体験を尋ねられて話すなどがあります。

そして国家資格取得に関しては学生と協働で随時模擬試験を実施し、学内教員と国試対策講座を計画・実施しています。

4年次部会の役割で最も重要なことは、“この大学の学生達が光り輝きながら巣立つ”ことができるよう全教職員に高い関心を注いでもらえるようにしていくことだと思います。

2013 海外研修ハワイセミナーを終えて

シミュレーションを活用したチーム医療の学びに感動 3年次 伊波 詩織

8月18日から9月6日までの3週間、アメリカのハワイ州で研修を行いました。学生14人と引率教員2名が参加をしました。カウワイ島のカウワイコミュニティカレッジ(KCC)とオアフ島のハワイ大学で研修を行いました。

研修中、大学の授業や施設の見学でさまざまなことを学びましたが、特に私のなかで印象に残っていることは、KCCでの授業とハワイ大学やKCCでのシミュレーション教育について説明を受けたことでした。

KCCでは、英会話やフラダンス、ロミロミマッサージや、アメリカの医療制度などについて学びました。ハワイ大学での授業との大きな違いは通訳なしで、授業を受けたという点でした。英語を勉強する機会があっても、使う機会があまりなかったため、英語で授業を聞いたり、わからないことを質問したりすることで、アウトプットする機会ができました。この経験から、自分の英語力を向上させる必要性を感じ、学習意欲の向上につながりました。また、ロミロミマッサージやフラダンスを学ぶことでハワイの文化に触れることもできました。

沖縄県立看護大学でも、シミュレーション用の人形はありますが、ハワイ大学で見た人形の機能に驚きました。ハワイ大学の成人のシミュレーション人形は脈を触れたり、呼吸数を測れるのはもちろんのこと、瞬きをすることができたり、汗や涙を流すことができることにとても驚きました。また、妊婦さんの人形もあり、実際に分娩を行うことができるそうです。新生児の人形は刺激を与えると、手足が動き、臍帯に触れると脈をとることができました。

成人の人形を使って実際にCPRのシミュレーションを行っている様子をビデオで見せてもらいました。数名の学生がチームとして自分のやるべきことを行っていることに感動しました。この研修のなかで、ハワイの文化やアメリカの医療制度、ハワイで行われている看護教育などさまざまなことを学ぶことができました。

この研修で学んだことを、在学中の学習にはもちろんのこと卒業後の学習にも生かして、日本の医療に貢献できるような看護師になりたいと思いました。



学生とのかけがえのない時間の共有

引率教員 山本 真充

8月18日(日)から9月6日(金)までの20日間、第13回沖縄県立看護大学海外研修セミナーーハワイ2013ー(ハワイ研修)が開催され、14名の学生と2名の引率教員が参加しました。

前半の2週間はカウアイ・コミュニティ・カレッジでの研修で、英会話やフィジカルアセスメント、フラダンスなどの講義、病院や高齢者施設の視察、そしてホームステイが行われ、講義の様子などが地元の新聞で紹介されました。また、後半の5日間はハワイ大学マノア校での研修で、沖縄からの移民の歴史や米国の保健医療福祉事情などの講義とホスピス、シミュレーションセンターの視察が行われました。ハワイの豊かな自然と人々の温かいもてなしの中で、学生たちは英語や米国の保健医療福祉、異文化について多くのことを学びとともに、仲間たちとのかけがえのない時間を過ごしていたようです。私自身も異文化に触れることの楽しさとすばらしさを再認識することができました。

ハワイ研修を開催するにあたりご尽力いただきました関係者のみなさまに感謝申し上げます。



キャンパスライフ紹介

学生会の活動紹介

よりよい大学づくりを目指して

2年次 新垣 孝尚

私たち学生会では、学生がより良い大学生活を送れるようにサポートすることを目的とし、主な活動としては、大学でのイベントの企画・運営、サークル活動の推進、学生会の予算案編成などを行っています。現在、取り組んでいるイベントは看大祭で、本大学の誇れる伝統的なイベントの一つでもあります。

今年の看大祭の目標は、学生の自主性を重んじ、学生間での交流だけでなくお越しくださった地域の方々との交流を通して、学生一人一人が学び・楽しむことを目標としています。

また、今年は、創立15周年を迎える節目の年でもあります。先輩方が積み上げてきた功績・伝統を大切に、未来の看護職をしょって立つものとしての自覚を持ち、学生が積極的に関わり合いの輪を広げていけるよう、学生会一同、日々活動に励み、より良い大学づくりを目指し頑張っていきたいと思っております。



サークル活動紹介

三線サークル

サークル長(2年次) 當山 裕実

三線サークルは、2年次が6名、1・4年次が2名ずつと10名弱で活動しているサークルです。主に看大祭での演奏を1年を通しての大きな活動としており、それ以外では行きたい・行ける日にサークル室に赴き、好きな曲を好きなだけ弾いて各々で楽しむような形をとっています。

活動することを強制することはしていないため、活動日と定めている日に誰一人としてこなかったり、逆に多くの人が集まったりと様々です。また三線サークルではない人も部屋にふらっと寄り三線を弾いてみたりと、サークルという枠にこだわらず、誰でも三線を楽しめるような雰囲気を作るようにしています。

1・2年次は皆、三線の初心者であり三線教室へ通っている人はいません。そのため、皆で教えあったり、4年次の先輩に教えていただいたりして練習しています。誰でも気軽に楽しめると思うので、興味があればぜひ寄って三線に触れ、沖縄の「三線」の良さを感じ取っていただければ幸いです。



スポーツ全般サークル

サークル長(4年次) 糸数 直志

こんにちは。スポーツ全般サークルのサークル長をしている糸数です。

スポーツ全般サークルには1年次から4年次まで男女問わず数多くの学生が所属しています。毎週火曜日と金曜日の5時半から9時まで活動を行っており、主にバレーボールやフットサル、バスケットボールなどの球技を行っています。しかし、「球技が上手でなければいけない…」ということは全く問題になりません。できる、出来ないに関係なく楽しめます!! その他にも交流を兼ねてみんなでボーリングやアイススケートに出掛けたりなど、イベント盛りだくさんです。私は、週に2回身体を動かしてみんなで盛り上がることで日頃のストレスも発散でき、充実した大学生活を送っています。また、スポーツを通して1年次から4年次までの学生が交流を深める事のできる貴重な場となっており、先輩後輩仲良くサークル以外の場でもみんなで盛り上げられる雰囲気であふれています。

いつでもだれでも大歓迎なので、スポーツ全般サークルに入りたい方は毎週火曜日と金曜日、体育館に顔を出してください!!



発見！ 素敵な横顔

事務局長 新城 清



人生、長くて短く、波乱の日々、まさに、私が歩んできた道のり、そのものでしょう。

- ①- 1 小1: テストの時間に、問題を先生に、やってくれ、と放り投げた。
 - 2 小5~6: 女子生徒と喧嘩の日々に明け暮れる。
 - 3 中学: 21組マンモス学校に通う。高校: 近くの映画館、那覇商業に目が・・・
 - ②大学: 頭はパーマ、そこら辺のアンちゃん風20歳前後。
 - ③昭和54年入庁(宮古病院勤務)、救急外来で酔っぱらいの患者の傷口に手を添えてナースに協力。
3年間、オトリーで鍛えられるも、酒に強くなれず。
 - ④自治大学校にて半年学ぶ40歳前後。六本木にどれくらい通ったかな。
 - ⑤東京事務所の1年は、企業誘致担当。都内企業への営業、電車に乗り遅れたり、これは楽しかった。公務員として、営業の感覚を持ち合わせるべきことを学べたかな。
 - ⑥2009.4: 観光振興課で観光関連業界との接点(観光立県の現状等が垣間見れた)。
 - ⑦2010.4~2013.3: 知事公室、知事周辺の奇々怪々な世界に関与、この間、多くのことを会得できた気がする。
- 私にとっては、最も影響力の大きな人物との出会いが全てであった。まさに今の私の口上で聞かれるキーワード「まっとーばあ」「淡々と」「人生、無理無駄ない」などは、この間の様々な体験等によるところが大きいのではないのでしょうか。
- 沖縄の未来を担う若手へどう繋いでいけるかが我々に託された一つであろうから、なお、奮闘の日々を看護大学発で邁進していかなばならぬ。

教授 永島 すえみ

沖縄で懐かしい風景に出会いました。

その一つは、子どもの日(5月5日)前後の数週間にわたって近所の川の上を保育所や小学校などの子どもたちの手作り鯉のぼりが、屋根の上ではなく、川の上を泳いでいました。数百艘で群れをなしての川のぼりです。もう一つは平和公園の片隅の蘇鉄の雌雄です。幼いころは、ソテツ(蘇鉄)味噌を作るときには実が発酵する匂いが家中に充満していました。畑の四隅には蘇鉄が植わっている風景がどこでも見られていたのです。今では見るのが難しくなりました。それにしてもみごとです。丸い方が実を包んでいる雌で1本のみ、雄の方は5本の群生です。

人や動植物の生命活動が互いに影響し合い住環境を創りだしてゆく。わたくし自身沖縄での新たな学習を歩み始め、風景を創造するオキナワ(大きな輪・沖縄)の中に住まうことになりました。よろしくお願い致します。



平成25年度の主な大学行事(平成25年4月~平成26年3月)

- | | |
|--------------------------|----------------------------------|
| 4月 3日(水) 入学式 | 11月16日(土) 特別選抜入試(看護学科) |
| 4月 8日(月) 前期授業開始 | 11月16日(土) 推薦選抜・社会人特別選抜入試(別科助産専攻) |
| 5月15日(水) 開学記念日 | 12月13日(金) 卒業論文発表会 |
| 7月27日(土) オープンキャンパス | 1月18日(土) ~19日(日) 大学入試センター試験 |
| 8月18日(日) ~9月6日(金) ハワイ研修 | 2月12日(水) 一般選抜入試(別科助産専攻)、大学院入試 |
| 9月14日(土) 大学院入試 | 2月25日(火) 一般選抜入試(前期・看護学科) |
| 9月21日(土) ~22日(日) 第15回看大祭 | 3月12日(水) 一般選抜入試(後期・看護学科) |
| 10月1日(火) 後期授業開始 | 3月15日(土) 卒業式 |

※詳しくは大学ホームページをご覧ください。

「かせかけ」とは

かせかけとは、琉球古典舞踊七踊りの一つです。総(かせ)とは紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。沖縄県立看護大学は、国際的視野に立つこの踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って着物に仕立てていく、その一途の心と地道にして洗練された「技術」・「感性」・「情熱」そして優しさは、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育てる教育・研究の原点に相通ずるものであろうと、広報誌の名称にしました。



琉球古典舞踊「かせかけ」に用いる道具

沖縄県立看護大学

〒902-0076
 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
 TEL (098) 833-8800(代表) FAX (098) 833-5133
<http://www.okinawa-nurs.ac.jp>

- 編集 沖縄県立看護大学/広報・情報専門部会
- 発行 2013(平成25年)10月18日

沖縄県立看護大学

検索